# 本願寺派の新しい『領解文』について

光遠会 (ZOOM)

2023/05/26 (金)

## 『領解文』とは？

大谷派では『改悔文』といわれ、蓮如上人が作られたとされる浄土真宗の信仰表現で、長きにわたって浄土真宗の聖典として大切にされてきた。

> **もろもろの雑行・雑修、自力のこころをふりすてて、一心に「阿弥陀如来、我等が今度の一大事の後生御たすけそうらえ」とたのみもうしてそうろう。たのむ一念のとき、往生一定・御たすけ治定とぞんじ、このうえの称名は、御恩報謝とよろこびもうし候う。この御ことわり聴聞もうしわけそうろうこと、御開山聖人御出世の御恩・次第相承の善知識のあさからざる御勧化の御恩と、ありがたくぞんじ候う。このうえはさだめおかせらるる御おきて、一期をかぎりまもりもうすべく候う。**

## 新しい『領解文』とは何か？

2023（令和 5）年 1 月 16 日に、現在の本願寺派のご門主 (専如) からご消息として発布される。その内容は新しく作られたもので、従来の『領解文』の現代語訳ではない (以下、『新領解文』と表記)。

> **南無阿弥陀仏　「われにまかせよ　そのまま救う」の　弥陀のよび声**
> **私の煩悩と仏のさとりは　本来一つゆえ　「そのまま救う」が　弥陀のよび声**
> **ありがとう　といただいて　この愚身をまかす　このままで**
> **救い取られる　自然の浄土　仏恩報謝の　お念仏**

> **これもひとえに　宗祖親鸞聖人と**
> **法灯を伝承された　歴代宗主の　尊いお導きに　よるものです**

**み教えを依りどころに生きる者となり　少しずつ　執われの心を　離れます**
**生かされていることに　感謝して　むさぼり　いかりに　流されず**
**穏やかな顔と　優しい言葉　喜びも　悲しみも　分かち合い**
**日々に　精一杯　つとめます**

## (1) 表題の問題とは何か？

『領解文』は、長きにわたり広く用いられているものだが、ここに〈新しい〉と冠された領解文ができたことで、混乱が生じている。

## (2) 表現形式の問題とは何か？

新領解文は、唱和を前提として、詩の形で作られた。しかし、韻文でありながら、語数や文末表現に統一感がなく、唱えにくく感じる。

## (3) 内容の問題とは何か？

- 「私の煩悩と仏のさとりは　本来ひとつゆえ」の文言

私が仏であると読めてしまう。私が仏であれば、阿弥陀さまの救いが必要ないことになるのではないか。

- 「尊いお導き」の文言

親鸞聖人と歴代宗主に限定されるように感じる。

- 「み教えを依りどころに生きる者」の文言

一般的な道徳が救いの条件のように見える部分があり、善人のみが救われると誤解される。

## (4) 制定過程の問題とは何か？

ご門主がご消息を発布するには、宗務の執行機関「総局」が作成した「ご消息案」(上申書) を、浄土真宗の教義に沿っているかどうかを宗派最高位の学者 5 名 (勧学寮員) が確かめて同意し、「総局」が法規に基づいた手続きを行う必要がある。しかし、(1)、(2)、(3) で述べた問題点が未解決の状態で、手続きが順当に行われたのかが甚だ疑問である。また発布された後の宗会 (議会) で、手続きが不透明なまま拝読・唱和を推進することの是非が問われたが、十分な議論がされないまま宗会議員の多数決による議決で今に至っている。

## 「浄土真宗の救いのよろこび」とは？

2005 年に現代版の領解文と御文章の制作事業がはじまり、その成果として、2009 年に「拝読 浄土真宗のみ教え」の中に現代版領解文として収録されたのが「浄土真宗の救いのよろこび」である。

**阿弥陀如来の本願は　かならず救うまかせよと**
**南無阿弥陀仏のみ名となり　たえず私によびかけます**
**このよび声を聞きひらき　如来の救いにまかすとき**
**永遠に消えない灯火が　私の心にともります**
**如来の大悲に生かされて　御恩報謝のよろこびに**
**南無阿弥陀仏を称えつつ　真実の道を歩みます**
**この世の縁の尽きるとき　如来の浄土に生まれては**
**さとりの智慧をいただいて　あらゆるいのちを救います**
**宗祖親鸞聖人が　如来の真実を示された**
**浄土真宗のみ教えを　共によろこび広めます**

「拝読 浄土真宗のみ教え」には、「領解文のよき伝統とその精神を受け継いだ『浄土真宗の救いのよろこび』ならびに御文章のよき伝統とその精神を受け継いだ『親鸞聖人のことば』」と記されている。この時点で、現代版領解文の制作事業は終えたが、2015 年に再び現代版の領解文制定が事業にあがる。そして、2019 年には「拝読 浄土真宗のみ教え」から「浄土真宗の救いのよろこび」が削除された。その理由は明らかにはされていない。

### (5) 唱和の問題とは何か？

領解とは、一人一人の信心の表明である。しかし、新領解文は、みんなで唱和することが推奨されている。様々な問題を抱えたまま唱和を推奨することは、本来の信心の表明とはかけ離れている。

## 様々な問題を抱えたものがなぜ発布されたか？

新領解文は、十分な検討と準備ができないままに大急ぎで作成・発布された。そして、検討と準備の不足を隠すため、ご門主が発布したという権威が理由にされたように見える。結果として議論や反対意見が排除されてしまった。